

社会科学学習指導案

指導者 呉市立吉浦中学校
教諭 吉井 智則

- 1 日 時 平成 25 年 12 月 13 日 (金) 第 5 校時
- 2 学年・学級 第 3 学年 C 組 男子 19 名, 女子 12 名, 計 31 名
- 3 場 所 3 年 C 組教室
- 4 単 元 名 財政と福祉

5 単元について

○ 教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会編の公民的分野の内容の「ウ国民の生活と政府の役割」に示された「市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる」ということを主なねらいとしている。

国民の生活と福祉の向上を図るには、国や地方公共団体がどのような役割を果たしているのかということを理解させる必要がある。また、財政の役割や租税の意義についても十分に考えさせていく必要がある。現在の日本において、社会保障は最重要課題の一つである。少子高齢社会における社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか、税の負担者として自分の将来とかかわらせて考えさせるなど、考えたりまとめたり、説明させたりする活動を取り入れる工夫も必要である。また、税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせるなど納税者としての自覚を養うことが重要である。

一方で、国の歳入・歳出や租税の状況、国債残高の推移など、本単元では、グラフなど様々な資料を活用することが想定される。さらに、一つの資料を読み取るだけでなく、複数の資料を関連させて活用することが求められる。現在の日本の状況を確実に理解させるとともに、本単元のねらいを達成する上で、複数の資料の活用は重要であると考えられる。

○ 生徒観

平成 25 年度全国学力・学習状況調査における国語 A の結果から様々な情報を関連させて読む力について課題があることが分かった。このことは、社会科でも同様であると考えられる。これまでの学習においても、様々な資料を読み取り、考える活動を多く行ってきた。複数の資料を読み取るためには、それぞれの特徴を明らかにしながら、どのような視点で資料を活用すればよいのかを明確にししながら、資料を判断し考える力を身に付けるような授業を構成していく必要がある。経済単元は特に知識の習得にとどまる傾向があり資料を考察することに課題がある。様々な資料を活用する手段はこれまでも学習してきているが、グラフや表の読み取りが多い単元であり、より一層資料を十分に考察する力を付けていく必要がある。

○ 指導観

指導にあたっては、納税という身近な義務と、日本の財政について関連させながら考えさせていく。その際、具体的な事例を活用しながら、自分の考えの根拠となる点をしっかりと挙げることができるようにする必要がある。また、資料の活用に課題が見られるため、本単元にお

いても、適切な資料を活用し、思考を深めていくことにつなげたい。

政府の仕事と財政・租税においては、累進課税の公正さについて、税の必要性や政府の支出と合わせて考えさせる。また、地方公共団体の歳出の削減の事例を取りあげる。社会保障のしくみにおいては、日本のサービスの特徴をまとめる活動を行う。その際、社会保障給付費のグラフと人口の増減のグラフから、社会保障の課題について考える。財政赤字と財政再建については、国債残高のグラフと歳出総額・税収・国債発行額のグラフを合わせて見ることで、日本の財政の特徴を明らかにさせる。また、これまで学習してきた点を踏まえて、社会保障のあり方について考えさせる。景気の変動と経済政策においては、どんな政策をすることが必要なのかを具体的な事例を通して考えさせたい。

6 単元の目標

国民の生活と福祉の向上を図るために、国や地方公共団体はどのような役割を果たしているのか理解し、財政の役割や租税の意義について考える。

【学習指導要領の内容項目（2）イ】

7 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
・市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に着目して、国や地方公共団体の経済活動や財政について考えようとしている。	・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するなどしている。 ・国や地方公共団体の経済活動に関わる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・収集した資料の中から、国や地方公共団体が果たしている役割についての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・国民が納税の義務を果たすことの大切さを、租税の意義と役割の学習を通して理解し、その知識を身に付けている。 ・個人の生活や産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題や、環境を保全し積極的に人間環境の改善を図るようにすることの重要性を理解し、その知識を身に付けている。

8 指導と評価の計画（全6時間）

次	学習内容	評 価					評価方法
		関	思	技	知	評価規準	
1	政府の仕事と財政・租税（1）				○	・国民が納税の義務を果たすことの大切さを、租税の意義と役割の学習を通して理解し、その知識を身に付けている。	ワークシート 行動観察
2	社会保障のしくみ（2）			○		・収集した資料の中から、国や地方公共団体が果たしている役割についての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	ワークシート 行動観察

			◎		・国や地方公共団体の経済活動に関わる課題を見いだし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	
3	財政赤字と財政再建（本時1 / 1）		○		・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現するなどしている。	ワークシート 行動観察
4	景気の変動と経済政策（1）	○			・市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に着目して、国や地方公共団体の経済活動や財政について考えようとしている。	ワークシート 行動観察
5	環境の保全（1）			○	・個人の生活や産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題や、環境を保全し積極的に人間環境の改善を図るようにすることの重要性について理解し、その知識を身に付けている。	ワークシート 行動観察

9 本時の展開

（1）本時の目標

財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。

（2）観点別評価規準

財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）

（3）準備物

教科書・ノート・ワークシート・振り返りカード

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
<p>導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「117万円」という数字から、これが何か予想する。 ○ 財政の現状と課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の1秒間で増える借金 	
<p>歳入が減少していく中で、社会保障についてどのように考えたらよいか？</p>		
<p>展開Ⅰ 日本の財政の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政について現状把握をする。 グラフⅠ：国債残高の変化 グラフⅡ：歳出総額・税金・国債発行額の変化 ・グラフⅠに関して、残高がどうなっているか読み取る。 ・国債とは何か教科書から調べる。 <p>段階① 社会保障制度の必要性の視点</p> <p>「公債を発行することの良さや課題について教科書から調べる。」</p> <p> 良：公共サービスの恩恵</p> <p> 課：返済できるかどうか、公債の発行</p> <p>段階② 税金の視点</p> <p>「なぜ国債（公債）は増加しているのかを考える。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税金減少による歳入の減少の補足 ・国債の累積や利子の返還による国債残高増加 ・少子高齢化などに伴う社会保障関係費の増加 <p>「グラフⅡに関して、それぞれの項目がどうなっている。」</p> <p>「なぜ国債残高が増加したのか。2つのグラフを組み合わせて、考えなさい。」</p> <p>段階③ 政策の視点</p> <p>「なぜ税金が減ったのか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不景気により企業からの税金減少 →公共投資を行う。 ・少子高齢社会により税を納める世代の減少 →労働者の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを活用して判断する。 ・残高は増えている。財政は非常に赤字になっている。 ・収入の不足を補うため個人や銀行に買ってもらった債券 ・社会資本の充実、生活の向上なども加える。 ・歳入を超えた歳出であり、来年度の予算などを紹介する。 ⇒過去最高の99兆2500億円を要求している。 ・歳出総額は増えているが、税金は減っている。国債発行額は増加している。 ・グラフを複数用いた読み取りをする。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>歳出の増加分を税金でまかなえていないため、不足を国債で補っている。（ワークシート）</p>

<p>展開Ⅱ 財政の課題への対策</p> <p>「増える歳出と減る歳入にどうやって対応したらよいか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 個人で考える。 ● ペアで考えを交流する。 <p>○ 交流した意見を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料として、前時までに使用した大阪府・アメリカ・スウェーデンの資料も活用させる。 <p>大阪…歳出の削減による財政再建</p> <p>アメリカ…低福祉・低負担による社会保障</p> <p>スウェーデン…高福祉・高負担による社会保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠をあげて説明させる。 	
<p>○ 発表した意見に対して考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会保障を削る⇒自分たちが歳をとったあとは良いのか？ ● 税収を増やす⇒どのように税を増やすと良いのか？ ● 歳出の削減をする⇒どこから切り詰めていくのか？ <p>まとめ</p> <p>○ 再度、学習課題に対して自分の考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が出した意見に対して、切り返しの発問をすることで、より考えを深めさせる。 <p>段階①から段階③へと議論が深まるように指導する。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。(ワークシート)</p>
<p>生徒のまとめ例</p> <p>段階① 社会保障制度の必要性の視点からの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出の増加はやむを得ない。それは、少子高齢社会がますます進行することが考えられるので、福祉を充実させるには、赤字覚悟で続けて行く必要がある。しかし、大阪府のように、徹底した人件費や建設事業費を削減する努力が必要となる。 <p>段階② 税収の視点からの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳出を減らすことが重要となる。その根拠は、財政赤字の元となる社会保障関係費を削減するためには、アメリカの例にならって、最小限のサービスにおさめ、自分で代金を払っていく仕組みに変えていくべきである。 ・増加する歳出に対応するためには、歳入を増やしていく努力をする必要がある。そのために、スウェーデンのように、負担を増やすことで、歳入が増えれば、現在のサービスを継続することができる。 <p>段階③ 政策の視点からの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳入を増やすためには、景気をよくする政策をとることで、歳入を超えるサービスを提供することが可能となり、景気の回復のためにも、積極的な社会資本への投資が必要となる。 		
<p>○ 本時の振り返りをする。</p> <p>「今後、どのような社会保障制度が実現可能だろうか。」</p>		